

令和2年度 第2回みんなで支える森林づくり松本地域会議

開催日時 令和2年12月2日(水) 午前11時～正午
開催場所 松本合同庁舎講堂
出席委員 太田委員(塩尻商工会議所中小企業相談所)
清沢委員(朝日村産業振興課課長)
佐藤委員(座長、森林環境教育研究室室長)
高橋委員(横山木材有限会社)
平島委員(自然エネルギーネットまつもと代表)
平林委員(安曇野市消費者の会)
増田委員(松本広域森林組合代表理事専務)

事務局 草間松本地域振興局長
千代林務課長
小日向課長補佐兼林務係長
福嶋課長補佐兼林産係長
太目課長補佐兼普及係長

会議事項

- (1) 令和2年度森林税活用事業について
- (2) 令和3年度森林税活用事業について
- (3) その他

<委員からの意見等>

- (増田委員) 森林税活用事業について、令和3年度予算がまとまるのはいつごろになるのでしょうか。
- (千代課長) 年が明ければ2月の県議会に予算を上程しますので、その前の査定の段階で、全体の枠が決まってきます。事業毎に振興局から要望を上げましたけれど、松本地域の予算の目鼻立ちがつくのは年度末のタイミングになります。今年度の状況を見ますと松本分で計1億2千万円位、ここ近年の推移を見ても、松本は県全体の予算額の総計の中の1割強となります。特に今年度、「松くい虫の枯損木活用事業」が9月の補正でコロナ対策の国の交付金に財源を変えまして、1億円ほどを松本地域で執行する取り組みを展開しています。この事業で、今年度の補正並みの予算が次年度の税事業で確保されれば、松本地域の森林税の予算は更に増加する可能性はあると思うのですが、その部分も含めて、今、予算の作業を進めておりますので、年度末には明確な数値を申し上げられると思います。
- (増田委員) 森林組合の現況を申し上げますと、現業職員の募集がすごく厳しい状況なので、今年もそうだったのですが、大きな予算が付いた場合、他の事業体の手を借りるような形になることをご承知願いたい。
- (千代課長) 世の中の情勢として、山の作業をしていただく方が新規で入ってくるのが厳しいということですか。予算額が前もってわかればなんとかなるとか、そういうことでなく全体的な話として厳しいということですか？
- (増田委員) 予算額が前もってわかってもそんなに人を集めることはできないのですけれど、他の事業体に早めにはお願いはできる。
- (千代課長) そういった点ではできるだけ早めに見通し等の情報を、共有させていただければと思います。
- (佐藤座長) 賃金の問題なのでしょうか、人が集まらないのはどこに問題がありそうですか。
- (増田委員) この間、県の労働財団で主催した説明会があったのですが、ひとところに比べれば、説明会の参加者が極端に少なくなっている。
アベノミクスで他の業界の景気が良くなってきた状態であったが、そうなる

林業関係はずっと同じペースで来ているから、結構、他の景気の良い業界に目が向いてしまう。

- (佐藤座長) それは賃金の問題ですか、労働条件ですか、何かネックがあると思われます。
- (増田委員) 賃金・労働条件だけというわけではなく、イメージ的なものがあるのかもしれないし、今回の説明会には5～6名しか来ていないが、5～10年前の説明会では10～15倍近い参加者が見られた。そのくらい変わってきている状況です。
- (高橋委員) 私が就職してから5年目ですが、私が就職したときは、面接会にもう少し人が来ていました。最近では本当に面接会に来る人が少ないという印象があります。
- 実際に辞めてしまう方も多くて、確かに賃金や雇用の体制の問題もあるとは思いますが、説明会に来る人が大幅に減ったという原因はわかりません。違う影響があるのかなとは思いますが。
- (佐藤座長) 林業を支えていく若者が進んで林業に入られる雰囲気づくりはどこで作ってあげればよいのでしょうか。
- (千代課長) 林務部でも様々な取り組みを展開していますが、一つには先程増田委員がおっしゃったイメージ的な問題もあると思いますので、林業、森林、農山村などの現場のイメージを良くしていく工夫を引き続きしなければならぬと思います。もう一つ、全産業の中でも、林業は労働災害の率が高い産業ですが、これが林業先進国のオーストリア等では非常に低く抑えられている。これは技術者育成の教育システムに違いがあることがわかってきていますので、今着手しているところですが、いかに安全な職場にしていくか、こういうことを着実に推進していく必要があります。就職説明会の参加者が激減したというのは、明確な理由は難しいのですが、他産業の求人の動向、産業全般の景気の動向に左右されると聞いたことがあります。数年前に林業への募集が多かった時期は、建設業界が厳しい状況にありました。そのへんは林業そのものの魅力、安全性とは別の理由があるのかなと思われるので、しっかり分析しなければいけないと思います。
- (佐藤座長) 総合的に林業関係の業種の方たちと話し合いながら、県とも国ともいろんなことを交えながら推進していただけたらと思います。
- それと、松くい虫の枯損木の利活用について、どのようなことを推進しているのでしょうか。
- (太目補佐) 事業の内容としては、枯損木、枯れてしまったものに対して、現地の調査ですとか、必要であれば森林作業道、伐倒してチップにしてバイオマス燃料へ持っていくという工程で考えているところでございます。今まで枯損木といいますが、事業があまりなかったものから、枯れきってしまったものへの補助が無かったのですが、この事業で現場の枯れて白くなっているものを現場から運び出してチップにすることで利用もできますし、現場も枯損木がなくなりきれいになるということでございます。
- (佐藤座長) F・POWERでも枯損木は取るわけですか。
- (太目補佐) そこもバイオマス燃料の実際の搬入先になると思いますが、そこだけでなく、他にも持っていける場所があれば、そちらでつかっていただくということで考えています。
- (平林委員) 先日、明科の押野山の土取場の貯木場に木材チップをもらいに行ってきたのですが、だいぶ木は減っていましたが、まだ枯損木が山積みになっていて、あのようなものをバイオマス発電に利用することはできるのでしょうか。
- 広い場所が枯損木で占有されてしまっていて、このまま朽ちていくのかと思って見えました。
- (千代課長) すでに切られて集積されているような状況ですか？
- (平林委員) 土取り場で山の中腹で平らになっているところに枯損木が積んであって、一部はチップになっていて、市民に配られたりするのでありますが、ただたくさん放置されていたので、あれはどうなるのかと思っていました。
- (太目補佐) 燃料として使えるものであれば、引き取ってくれるところもあると思いますが、

枯れすぎていると、燃料としてあまり好ましくなく、ある程度生のもが含まれていないと燃焼の関係では適さないとされます。枯れきっていないものも含めて、今回の事業は運び出すことになります。置かれているものについては、バイオマス燃料に使えるかどうかで変わってくると思います。

(千代課長) 一般的に山で積まれているものは、皆同じ木に見えるのですが、それが燃料として優秀な燃料になるかどうか、同じ木でも、廃棄物的に処理木として処理されたものなのか、あるいは生産をするつもりで間伐をして切られたものなのか、発電所で電力として売った時に売電価格が高いものになるか低いものになるのか、同じ木でも由来によって変わってきます。一つ一つの現場の状況で判断する必要がありますが、できるだけ利用する形になればと思います。

(平林委員) 安曇野市の林務課の方にお伺いしたので、多分市で松枯れの木を切ったものをそこに積んであると思います。更新伐の木もあるのかと思います。更新伐した部分は再生してきてよかったです。

(佐藤座長) 県では木を切る主体はだいたいわかると思うので、野ざらしになっているのもったいないので、事業主体と密接な打ち合わせをしていただきたいと思います。

(平島委員) 森林づくり県民税活用事業の枠組について、これは3年か5年はこの枠組のままでいくようなものなのか枠組の構造を教えてください。

項目について、説明がありましたが、幾つか説明が飛んでいるものがあつた中で、「薪によるエネルギーの地消地産推進事業」の状況を教えてください。

(千代課長) 活用事業の枠組は、今回は第3期5年間ということですが、そもそも2期目から3期目に移るときに、それまでの10年の実績の検証を委員会等でご議論いただき、いろいろご意見をいただく中で、事業の枠組が決まりました。5年間の目標を定めて枠組ができ、それを県民の皆さんにお示しし、ご意見をいただいた上で、必要だと認めていただき、5年間継続ということが決まっていますので、基本的には5年間これでいきますというお約束になっています。

但し、前期までの反省点として、使いきれずに基金に残った部分がありまして、これは国の制度が変わってしまったために、森林税がその影響で使いづらくなってしまい、うまく対応できなかったもので、このため、第3期は周囲の状況変化に応じて、フレキシブルに各地域会議等のご意見をお聞きしながら、大筋は一緒でも新しい事業を追加したり、効果が早めにでたものは他の事業に回したりすることができるようにしましょう、途中でも見直すべきは見直そうとなっています。すでに今3年目ですが、例えば「防災・減災のための里山等の整備」の中の「みんなで支える里山整備事業」の「ライフライン等保全対策」について、1年目に台風の風倒木がたくさん出たことを受けて、今期森林税で2年目から新たにメニューに加えた経過があります。そういうマイナーチェンジは常に皆さんのご意見を聞きながら対応していくことになっています。

(太目補佐) 「薪によるエネルギーの地消地産推進事業」ですけれども、令和元年度は1件松本管内でやったところですが、内容とすると先進地視察したり、薪割機の資材を購入する費用に補助を充てたり、事業のPRをするところまで、事業主体の方でやったものがあります。

事業費として、160万円くらいだったと思いますが、今年度につきましてもいろいろところに要望を聞いたりしたのですが、要望がなくて事業がありませんでした。

要望がありましたら、情報をいただければと思います。

(千代課長) 「薪によるエネルギーの地消地産推進事業」は、県全体の予算でも2件375万円で、モデル事業なので県内どこかではやっているのですが、たまたま松本管内では無いということになります。

他にも説明をとばした事業がありますが、これは県庁で県全体の事業として執行するため、振興局に配分されていないものになります。

そのような見方で一覧表をご覧ください。

(平島委員) 普及啓発関係の意見ですが、私は自然エネルギー信州ネットの理事もやっていて、今年森づくりのためのセミナーを3回連続で開催しました。1回3時間以上かかるセミナーを毎回70名以上の方にご参加いただいて、講師はドイツの池田憲昭さんという方をお願いして、コロナウイルスのためにオンラインでの開催になったのですが、オンラインになったために、いろんなところから人が聴講でき、かえって良かったということとドイツの講師の方を日本に呼ばなくても開催ができたということで、サイネージはサイネージとして、知らない人に対して周知することはいいことだと思いますけれど、森に関心のある人に対して、森の整備のことをもっと深く知りたいとか考えたいという人に対しては、それをより深めていただくことが必要かと思われまます。ある程度関心のある人に働きかけるという意味では、だいぶ皆さんオンラインに慣れ親しんできているので、来年度考えてみればどうかと思いました。

(千代委員) ありがとうございます。ぜひ参考にさせていただいて、この地域会議の意見については、本庁にも報告して、そういう形の普及啓発のあり方についても検討していきたいと思えます。おそらくオンラインで関心もっている層に発信するとなれば、全県一括してやった方が効果的ではないかと思えますし、そういう意味では、現地機関で無関心層に広く周知するというのと合わせてやることで啓発に厚みが出ると思えます。

(太田委員) 先ほど、担い手の話が出ていたのですけれども、商業の皆さんと接する機会が多いので、塩尻市の方で、大工さんとか木材を使われる方で、危惧しているのが製材をする方が少なくなっているというので、林務ではなく商工関係になると思うのですが、両方の面から担い手の普及をぜひ一緒にやっていただければいいのかなと思えます。

小学校の「学校林等利活用促進事業」の話があったのですけれども、コロナ禍でもあるので、どんな形でもいいので、外に出る授業が皆さんコロナ禍でやりやすいのかなと、それにうまく連携をさせて、木に触れるとか小さなことでもいいので、小学生が目を向けてくれているうちに、うまく利活用していただいて、コロナでもできる、なおかつ森林の何かにつながるという事業がもう少しできればいいのかなと思えます。

そういう支援を考えていただければと思います。

(佐藤座長) 昔、山に小学生の目を向けさせる手段として、松本市の有賀市長の時に提言したのが、小学校6年生の秋の遠足の時に、ドングリを拾ってきていただいて、ドングリの実を何粒か袋に入れて、来年入学した生徒に入学祝としてあげてくださいと、学校林があったら学校林に植えてもいいし、1年生が入学した後、学校の窓際でもいいからプランターに埋めておいて、観察させたらどうですかと提言したことがあったのですが、いいことだと返事をいただいたが、実施はしていただけなかった。小学生に何らかの形で目を向けさせることをするのは、大人が山に入って整備するのも大切ですが、小さいうちに山に入れる雰囲気を作ってやるのが大切と思えます。

(太目補佐) 税事業ではないのですけれども、毎年、緑の少年団交流集会を開催しております、小学生とか多く出てきていただいて、イベント的に林業関係に触れていただいているのですけれども、今年、コロナの関係で中止になってしまっていますけれども、来年はそういう機会を見てやっていきたいと思っています。

税事業の中で言いますと、先週、梓川中学校で学校の椅子づくりをやったという話で、木工の支援を事業として実施しました。そういった木に触れるという面においても引き続きやっていきたいと思っています。

(清沢委員) 里山整備については、こういう風にやられているのだとびっくりしました。里山整備を継続していける仕組みを作らないと1回で終わってしまうと思えます。

いかに若い世代、子供たちに山を守っていく思いをつなげていくことがやっぱり必要だと思えますので、県と協力してやっていきたいと思えます。

事業の中で朝日村も薪ストーブを設置されているご家庭が多くて、薪がありませんかと聞かれたりするのですが、自分たちでも探す努力をやっていかななくてはいけないということを感じ取って欲しいなという思いがあるものですから、こういった事業の中で、自分たちはこういうことができるのだということをもっと県民の皆さんに事業の紹介をする中で、活用方法のやり方をもう少し周知していただければ、自分たちからやっていくという仕組みが増やせるのかと思いました。

村でも松くい虫が発生してしまっていて、面的な部分はないのですが、非常に搬出するのが難しい場所がいっぱいあるものですから、ほとんど伐倒くん蒸処理をしています。景観的に見た目が良くないのですが、ああいうものは、将来的に薬剤を入れてしまった木というのは何かやれる方法、処理する方法、あのままにしておくしかないのか教えていただきたい。

(太目補佐) 枯れて朽ちてしまいますので、使うと木がぼろぼろと朽ちてしまって、場所的には運び出せない。可能ところは出していただいて。

(清沢委員) F・POWERでは薬剤入れたものは受けてくれないということですか。

(太目補佐) 前にやって積んであるやつは引き取ってくれない。

(佐藤座長) 薬剤注入して枯れて倒れたものはひきとってくれるのですか。

(太目補佐) 先ほど課長が申し上げた通り、現場の由来といいますか、間伐材であるという縛りがあるので、単木で1本2本とってくれるかというとなかなかそうはいかない。

(佐藤座長) 近所の木で枯れたものをとってくれといったって、引き取ってはもらえない？

(千代課長) そういったものはまず引き取らないと思います。自家消費的に薪として燃やしていただくことはできると思うのですけれど。

(佐藤座長) 一般家庭で薬剤が入ったものを燃やしてもいいものでしょうか。

薬の害がでるとかそういうことはないのでしょうか。

(千代課長) 燃焼のメカニズムに対して薬剤が悪影響を及ぼすことはない聞いていますけれども、環境への影響に関して詳しい情報は、今持ち合わせていません。

(佐藤座長) 何か弊害がありましたら、教えていただけたらと思います。

(平島委員) つい先日、四賀支所で神戸大学の黒田慶子さんの講演があって、ユーチューブで公開されているのをご覧になれば参考になります。

(千代課長) 黒田先生がおっしゃるには、枯れていっても、山は枯れていきながら次のコナラなどの広葉樹が出てくるので、何年かすれば緑の山になりますと。景観とかそういう意味でいえば、ずっとひどいまままで推移していくということはあまり考えられないので、さてどうするかという時のコストのかけ方という議論とその先の山をどうするかという議論を、自然の推移に任せるということも選択肢の一つとして、地域で検討していく必要があると思います。

(高橋委員) 山で働いていて、里山の荒廃をすごく感じています。人が入れない竹林であったりとか、木が蔓がらみで伐倒するのも危険だったり、たくさんあるので、地域の人達が山に入って、里山の資源を自分たちで共有するということがすごく大事ななと感じています。森林税の事業実績を拝見すると、以前より地域で活動されていて、事業をやっているところが増えている印象があるのですけれども、実際にはだんだん地域が増えてきているのですか。

(太目補佐) 里山整備利用地域は減ることはないのですが、以前より積み重なって、全部が全部、補助事業を活用しているのかということ、そうではないのですけれども、地域の活動に支援が欲しいとかそういうところは要望がありますので、額も地域ごとに多い少ないとかありますので、一概には言えませんが、地域としては、県としては150地域まで増やしたいということがありますので、そういった地域があれば認定に向けて協力していきたいと思っていますので、今後も引き続き対応していきたいと思っています。

(佐藤座長) 貴重なご意見をいただきました。県の方でもこういったご意見を参考にさせていただいて、今後の施策にいかしていただきたい。(終)